

# 加 佐

学校教育目標

『 仲間とともに 夢と希望をはぐくみ 学びあい 認めあい 鍛えあう生徒の育成 』

学校だより 10月号  
平成30年10月1日  
舞鶴市立加佐中学校

TEL 83-0004 FAX 83-3201

E-mail kasa-jhs@kyoto-be.ne.jp



## 贈物とプレゼントは同義語として使っていますが・・・



最近あまり言わなくなったかもしれませんが、日本人が贈物をするとき「お口に合わないかもしれませんが・・・」等と言うことがあります。相手が、額面通りとれば「そんな不味い物を持ってくるのか!」とお叱りを受ける言い回しであります。(日本では、粗品と書かれたタオル等を渡されても「ありがとう!」と言って貰います。)外国人がプレゼントを渡す時は「これは、わざわざ並ばないと買えない美味しい限定品で・・・」と言ったりするのでしょうか。国は違って共に、相手に感謝等を含め品物を贈る本質は同じです。ただ背景には、日本では『私なんかを選んだ品物を貴方に満足してもらえるの?』があり、外国では『価値ある品物を送らないとあなたに失礼である!』があるように思います。日本では贈る人の精神、外国では贈る品物に重点があるのです。“プレゼント”は、今や日本語として使われていますが、言葉の背景は少し違っているように思います。ただ日本語(日本文化)の中には、精神的な面も多く含まれていて、時代と共にそれらが変わるものは、やむを得ないもの大切にしなければならないような気がします。【言葉+その背景】を意識して把握できれば、相手の行動に対する真の理解に近づきます。日本の精神文化の深さ(今の時代には合わないと言う人もいますが・・・)を読み解く力の低下が、今の人間関係の希薄化につながっている様にも感じ、改めてその力が求められます。この力は、私達大人にとって、まだそれなりに感じとれて理解できますが、子ども達には、どこまで伝えることができているのでしょうか?子どもに接する時、言葉の背景も教えることができれば、大人の思いもより伝わるはずですよ。

本校が目指す生徒像

知;真面目に考え洞察力のある子  
徳;思いやりを持って助け合う子  
体;健康でたくましく行動する子

## 昔の戦(いくさ)のルールは現代では・・・?

戦国時代以前の戦で武将は「やあ、やあ我こそは・・・」と互いに名乗り合って戦ったようです。その間は、相手を攻撃しないと何とも悠長な戦いでした。ただ戦となれば、死も避けがたいのですが、矢が背中に刺さって亡くなれば、卑怯者の烙印を押されてしまいます。敵に背を向けて逃げるとは、武士として以ての外なのです。死を賭けた戦いに卑怯も何もないと思うのですが、何を大切にするかは、時代によって様々で、一概に理解できない面もあります。現代を生きる我々も、日々の生活の中で何かと戦っています。ただ戦いを通して自分が高まったかとか、戦いの中でも相手への思いが何も無く、とにかく勝てばいいとの風潮が強いような気がします。どの様な戦いでも勝者には、敗者のことを考える等、人としてどうあるべきか、分かる人であって欲しいものです。



校長 山口 茂

教職員一同